

ESD-中部RCE

暗黙知と生物多様性

Tacit Knowledge and Bio Diversity

持続可能社会と地域デザイン

Sustainability and Regional Design

by 駒宮博男



通称「風三郎」(我が家の裏山にある)

出穂期に風が吹かないように祈る風の神様

ちょっとだけ言葉の説明

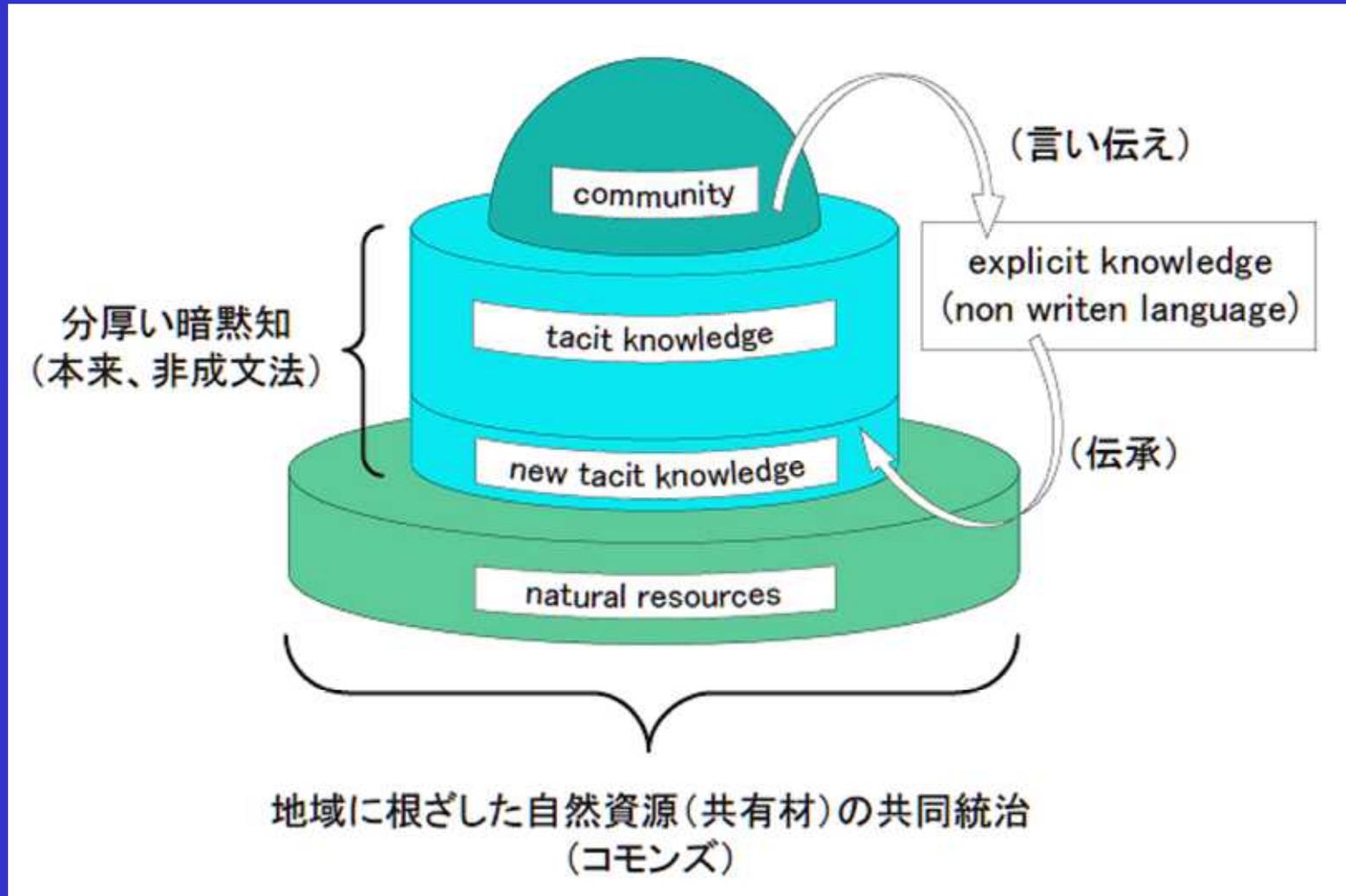
暗黙知 : tacit knowledge

- ・『暗黙知の次元』マイケル・ポランニー
- ・本来の意味としては、言語化されない知の体系
「創発」(科学的発見など)における言語化以前の知
- ・経済学者たちが意味を変えて使っているので注意！
(経済人類学者カール・ポランニー(兄)と混同している人もいる?！)

開示知 : explicit knowledge

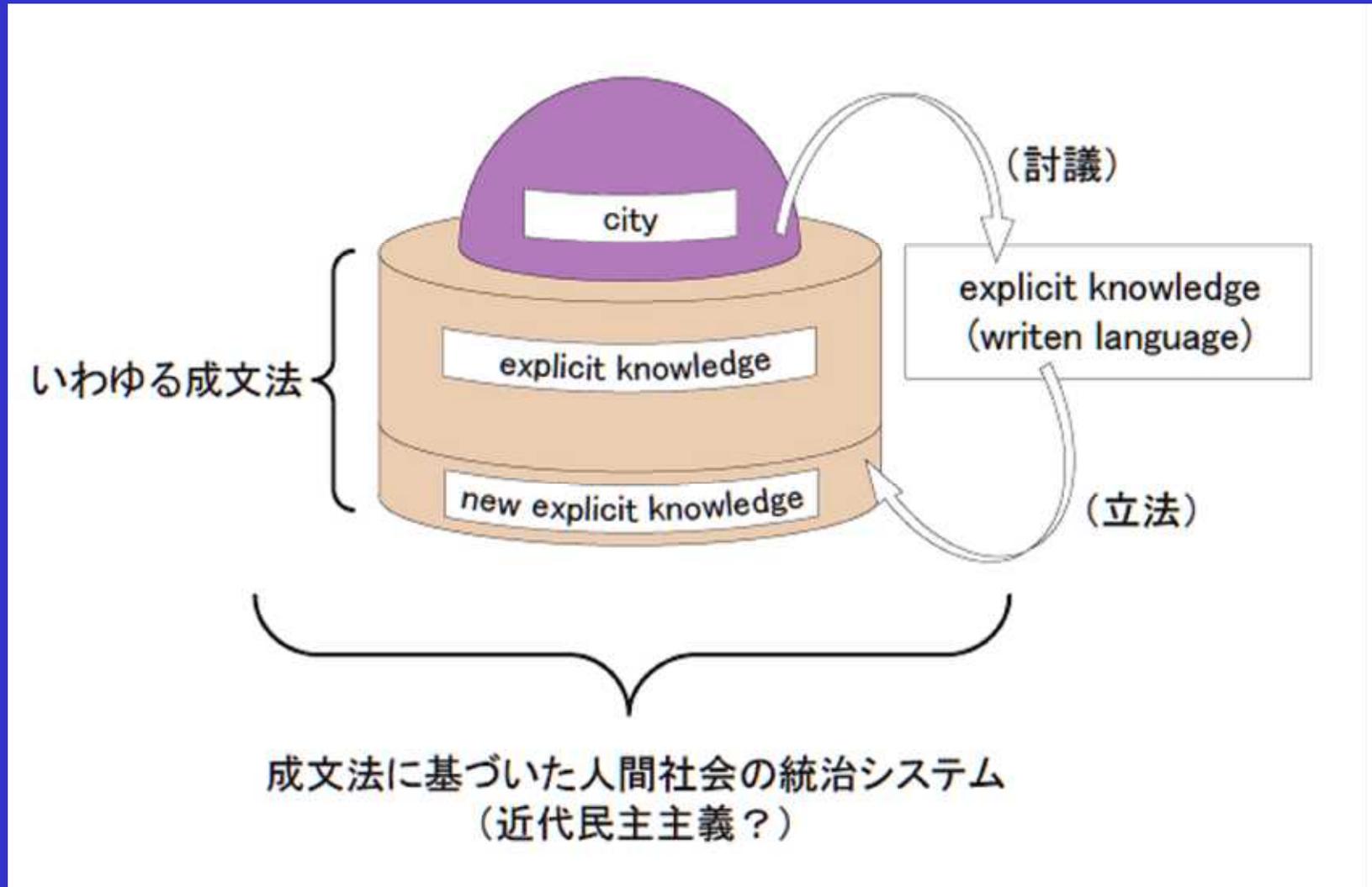
- ・言語化された知

コミュニティを支える「暗黙知」とは



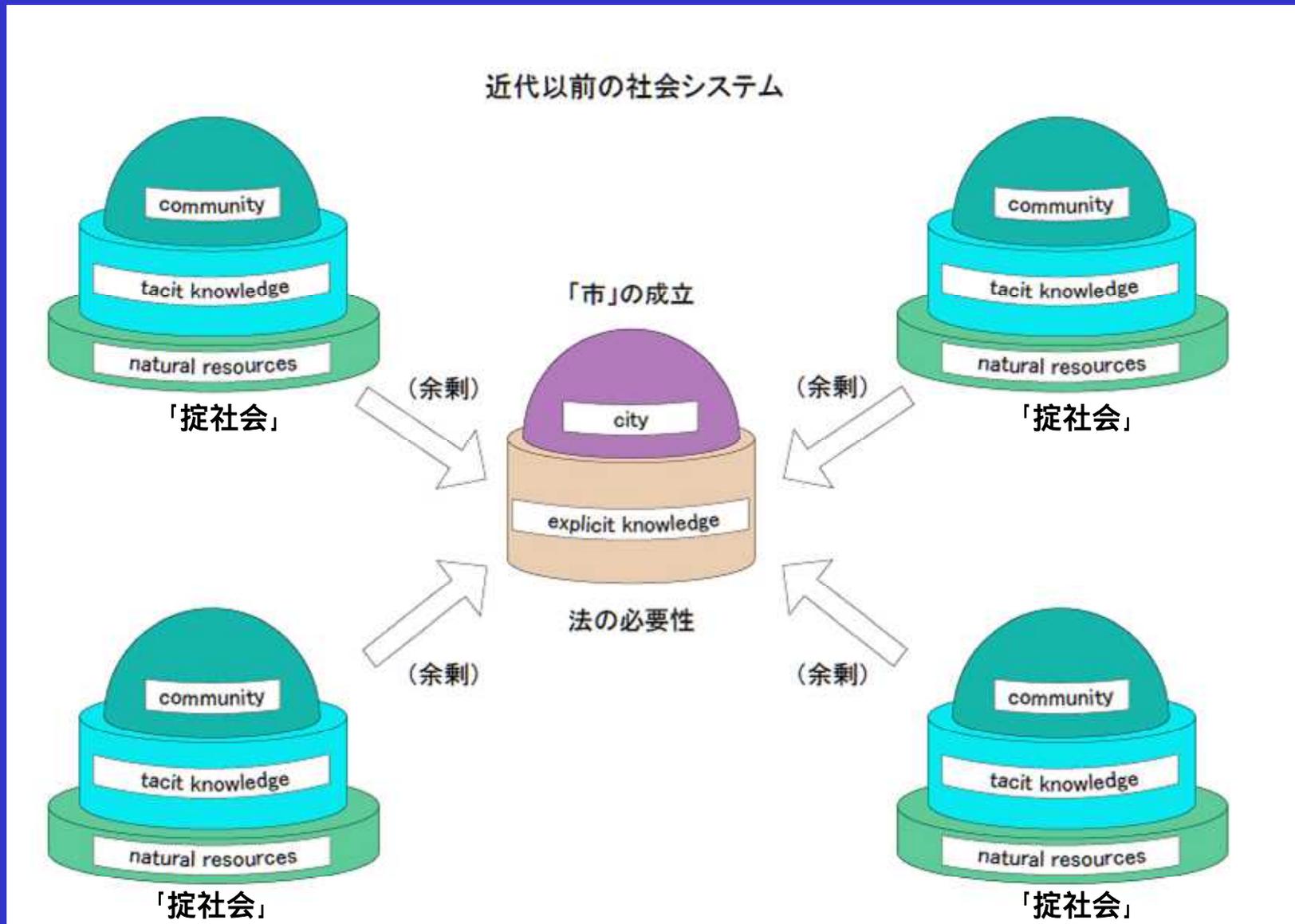
ほんの50年ほど前まで、地域の生産財は地域の自然資源だけだった！
……そして、地域は支えあって生きてきた。

「市」 都市(まち)の存在基盤は……



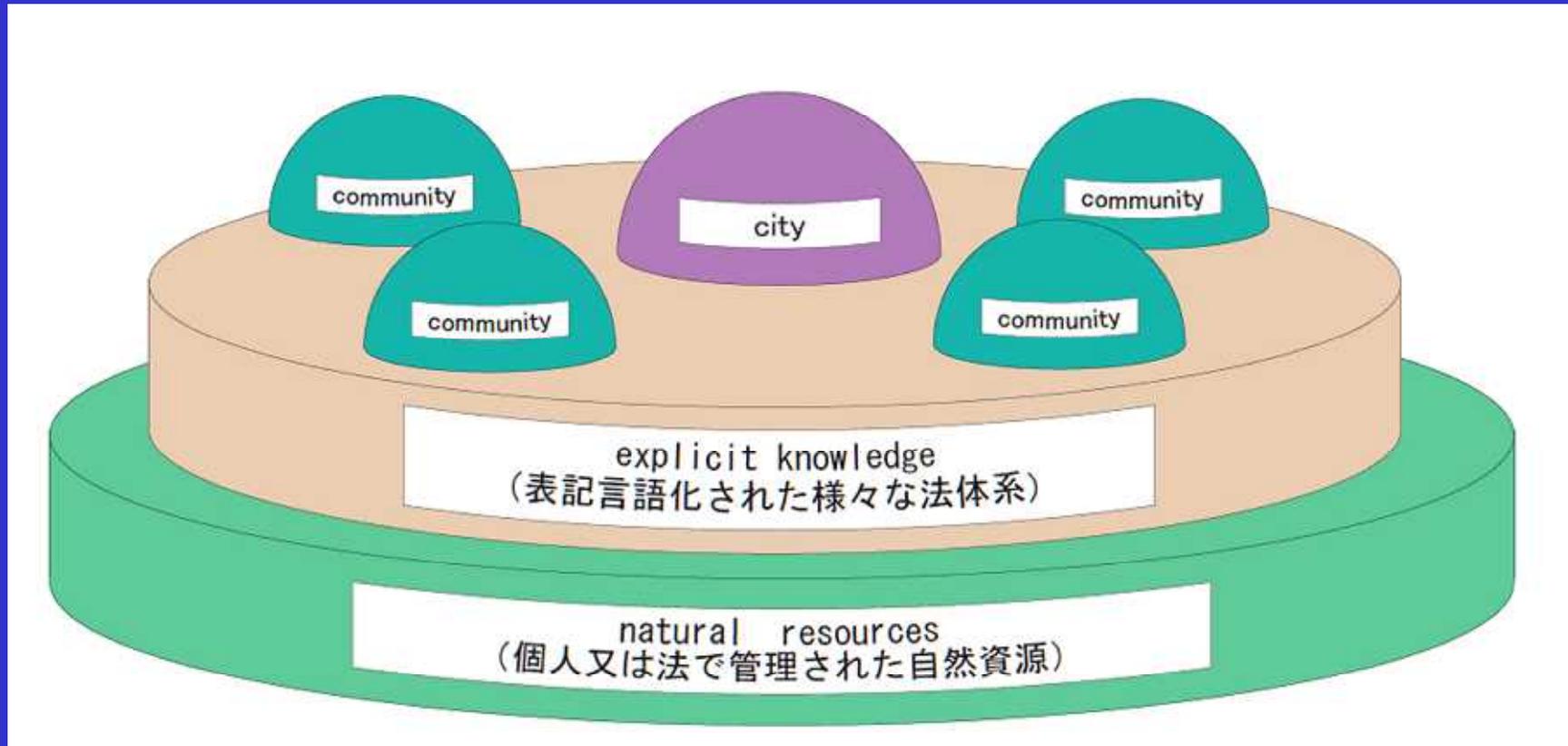
特に新しいまちは雑多な人々の生きる場所、だから共有の暗黙知は存在しない。
だからこそ、明文化された規則(法律)が必要となる。

近代以前の社会システム



三内丸山遺跡でも、コミュニティの中間に「市」の跡が発掘されている(神野直彦「地域再生の経済学」)

国民国家成立以降の社会システム



全ての資源は国家(政府)または個人の所有になり、コミュニティーは崩壊

そして、コミュニティーの成立基盤だった「暗黙知」も消失！！

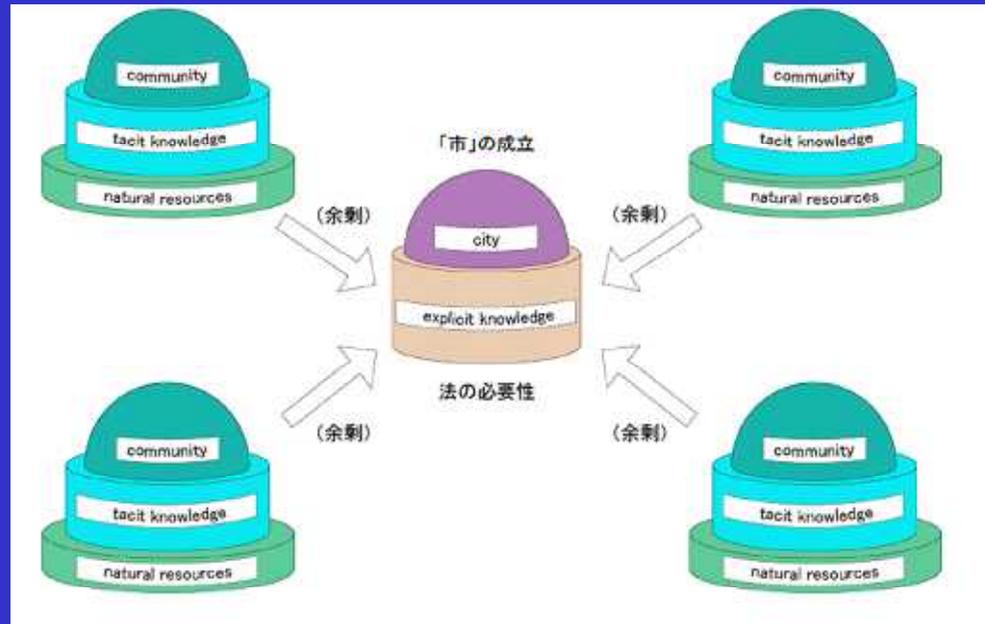
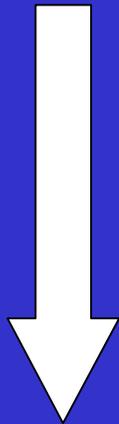
更に、共有材(自然資源)を共同で管理する仕組み「コモンズ」も消失！！

➡ かつて共有材だった「里山」は個人所有となり、ヒノキの暴落とともに荒れていった……

(参考 : 「新しい経済学は可能か = 新自由主義の正体」 (宇沢弘文 + 内橋克人 『世界』岩波書店4月号))

まとめてみると.....

言葉ではない「掟社会」



cf. トヨタの強み

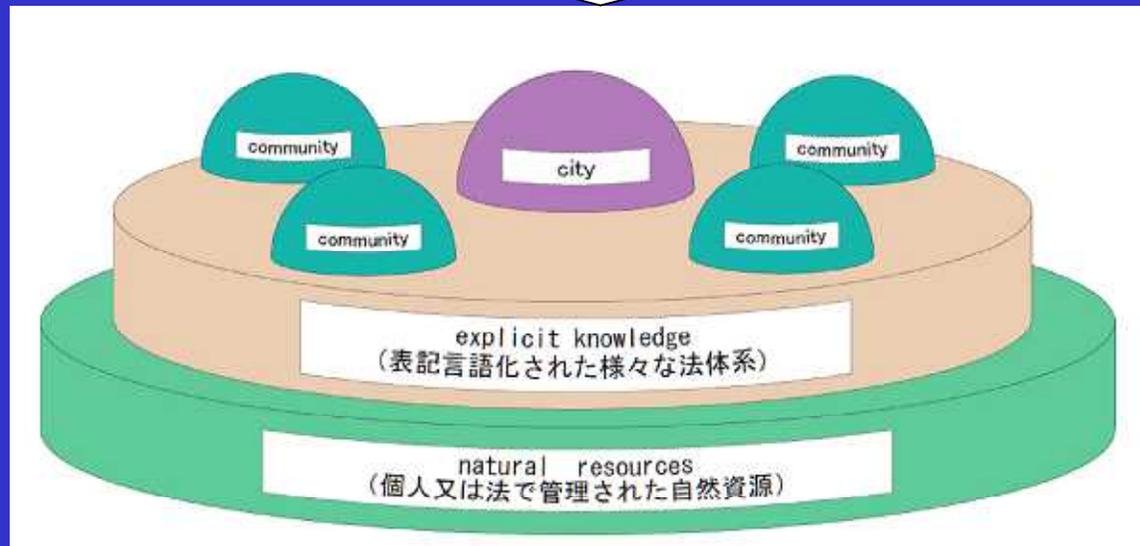
「暗黙知」による生産管理システム

ex. アイヌ

表記言語なし

言葉優先の社会へ

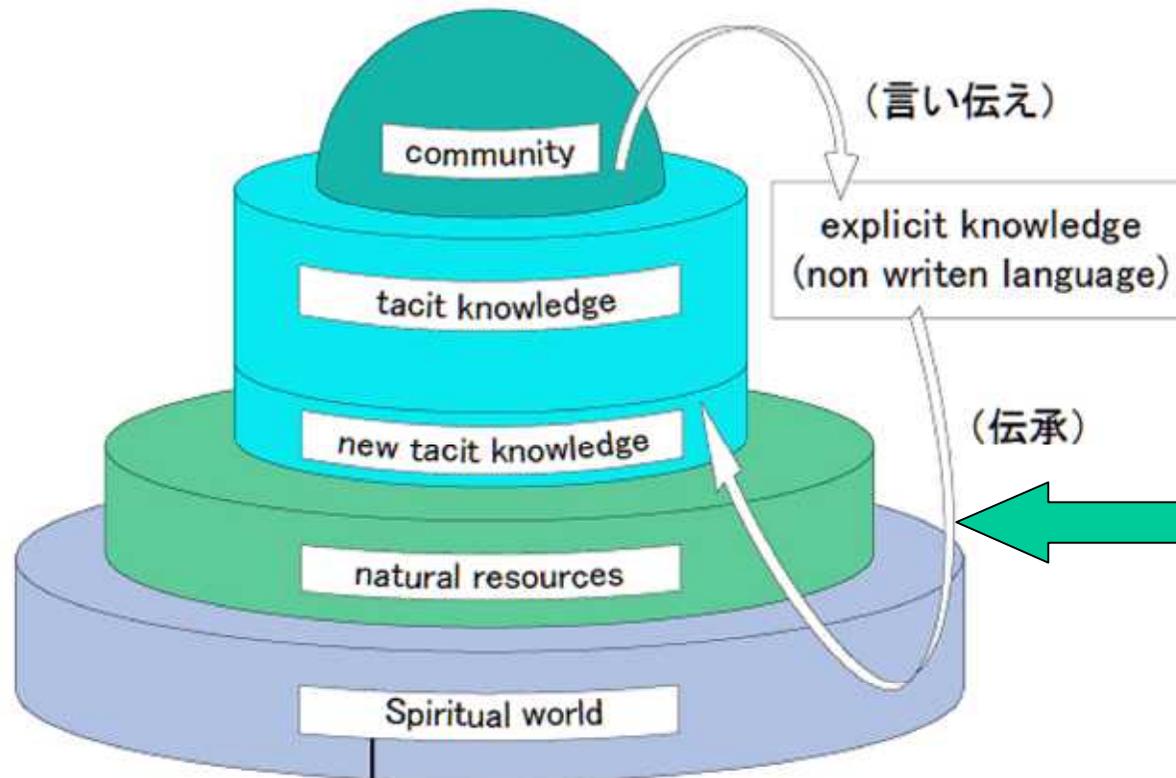
- (言語至上主義)
- (法治国家)
- (科学技術至上主義)
- (拝金主義)
- (金融至上主義)
- ⋮
- ⋮
- ⋮



ex. アメリカ

典型的言語優先社会

暗黙知と「聞き書き」、「地元学」の関係(私の個人的解釈)



表出としての事柄

- 祭り
- アニミズム
- 祖霊崇拜

日本

- 古神道
- 風神、水神
- 鎮守の森
- 氏神

「地元学」

「暗黙知」を含めた地域資源の発掘

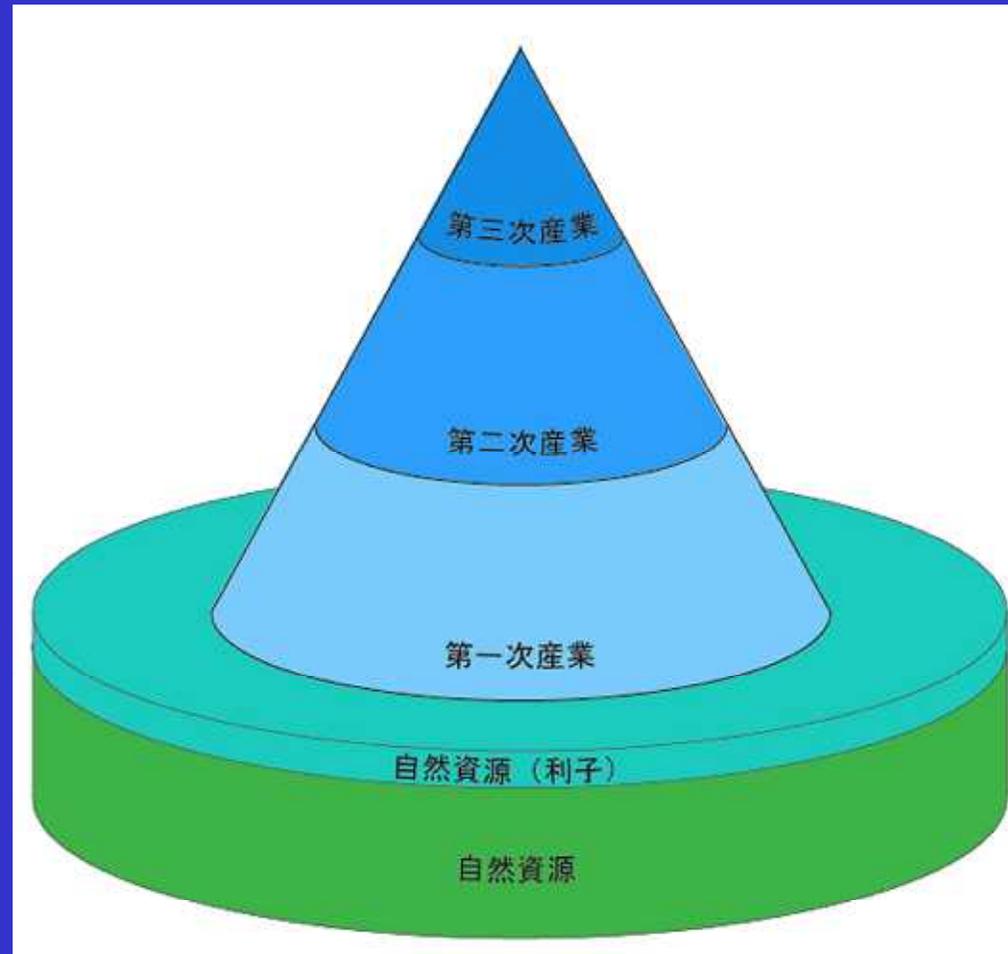
「聞き書き」

消えゆく「暗黙知」を言葉にしていく作業

↓
自然資源を使いきる智恵

↑
自然との融合

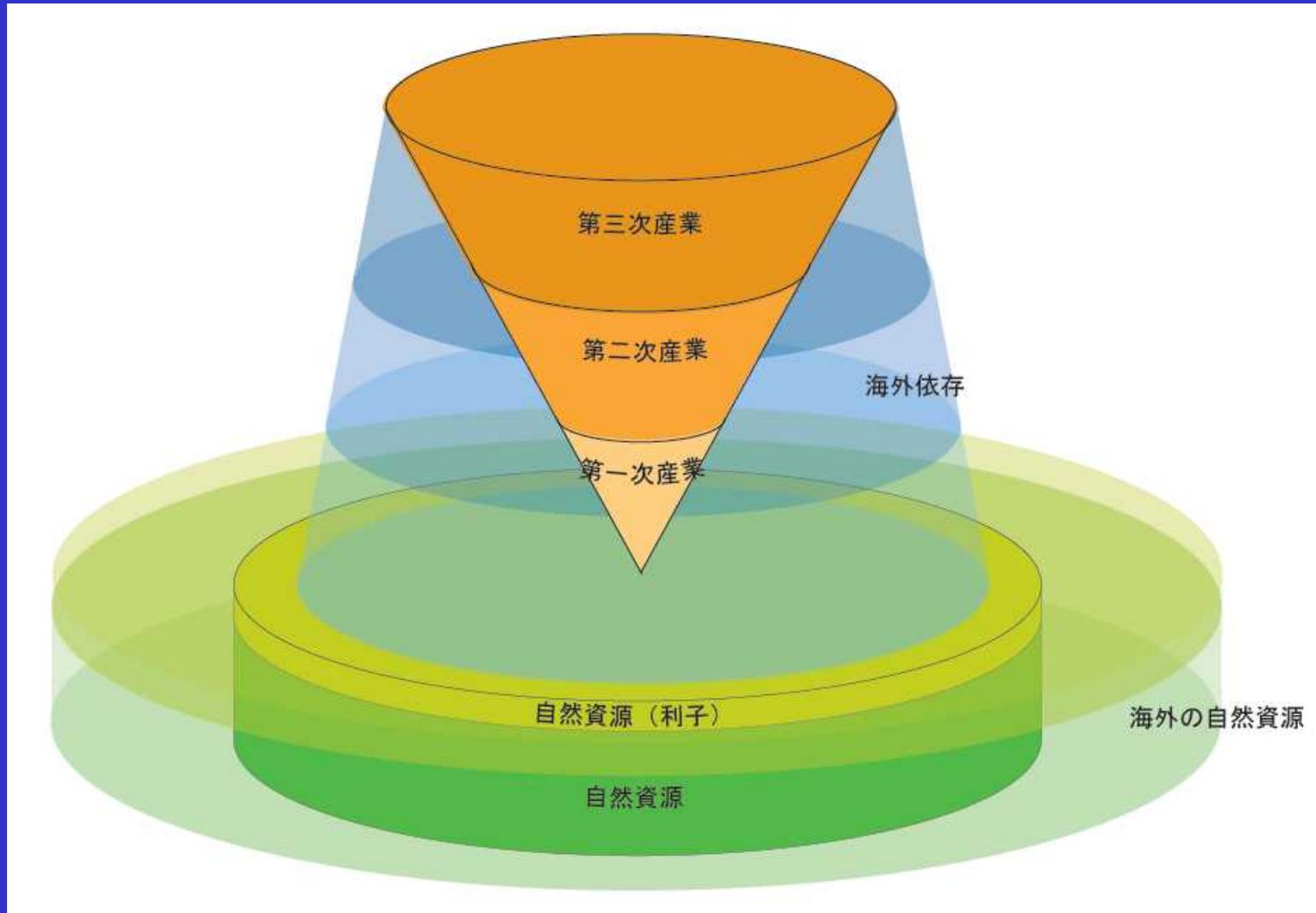
これまでの(持続可能社会だった頃の)産業構造



地域の自然資源(利子分)だけを使った第1次産業と第2次産業、そして、多くの場合ボランティアで行われていた第3次産業。

当然、地域の自然資源だけが、地域の生産財だった。

現在の日本の経済構造



地域の自然資源は見捨てられ、一次産業は衰退、海外の自然資源に頼った構造となった。
さらに、第二次産業の中心は「世界の工場」中国へ。

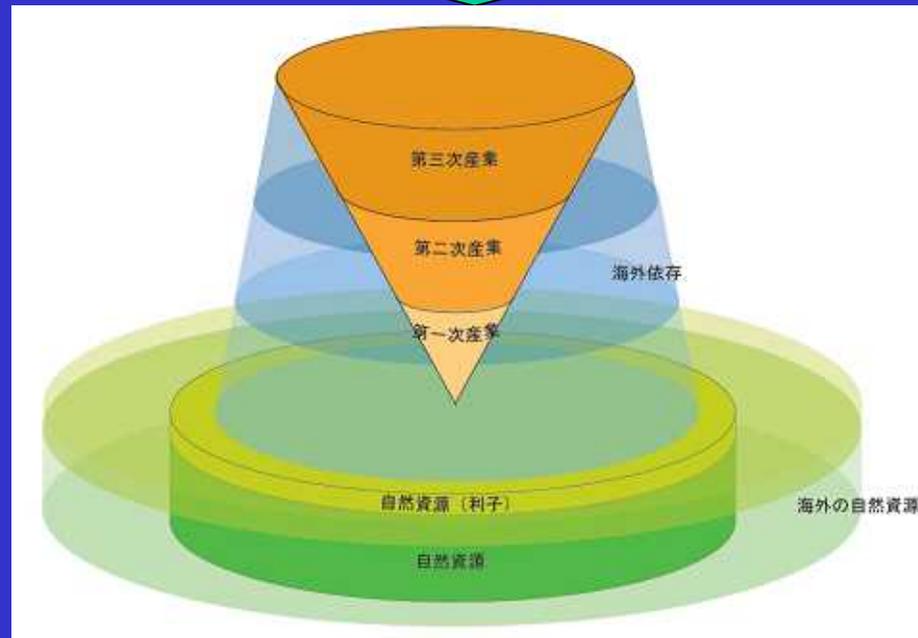
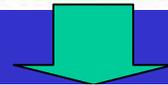
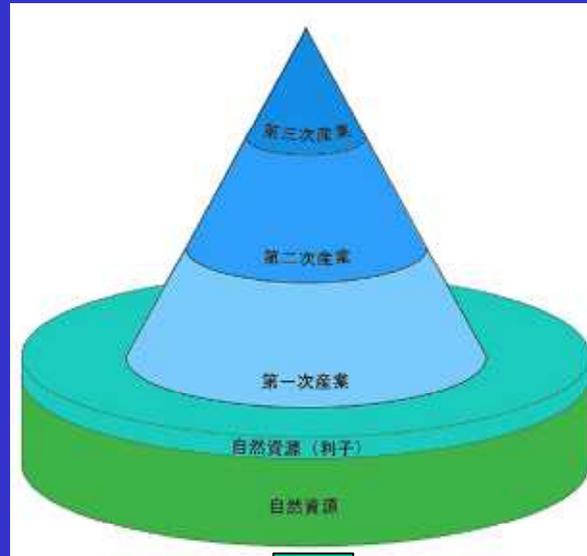
「田舎」といえども、産業の中心は第三次産業へ。

まとめてみると……

自然資本主義的産業構造

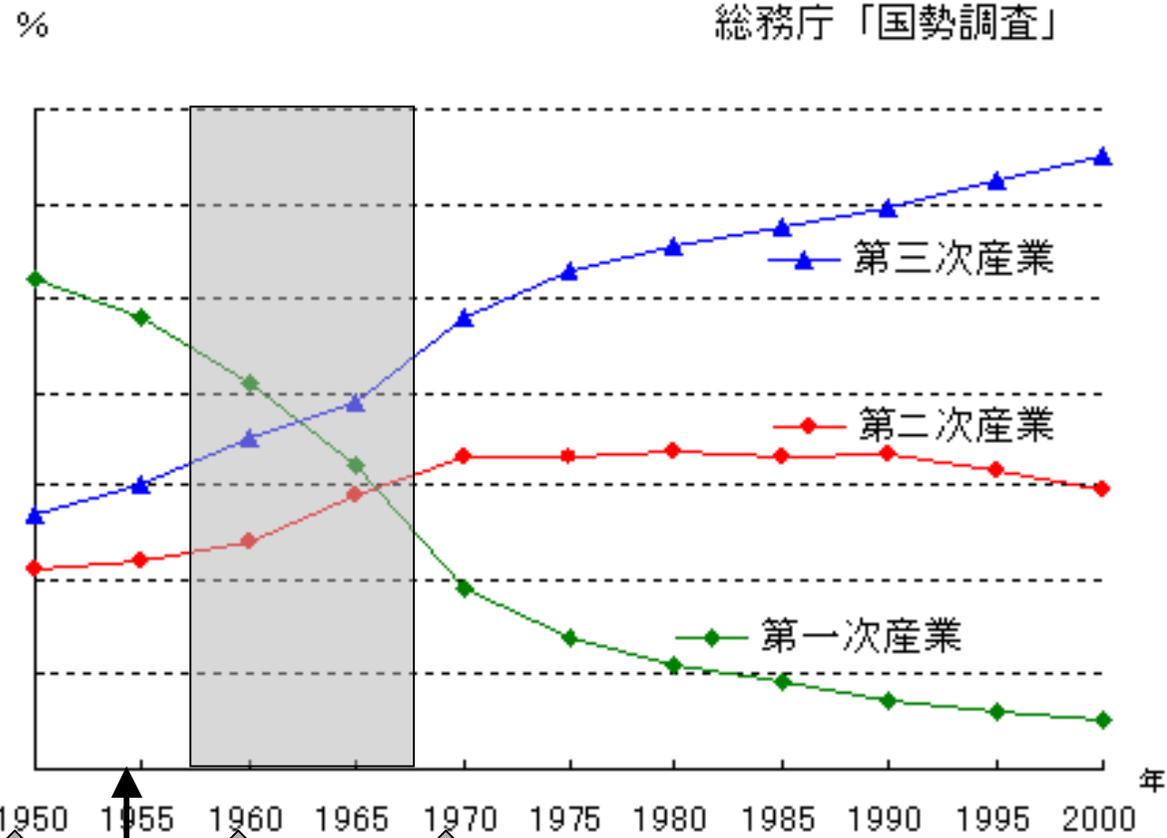


不労所得願望社会??



日本の産業構造の変化

産業構造の変化 就業者構成比 日本



私が生まれた年

明確な社会の変わり目
(1959年 伊勢湾台風)
(1964年 東京オリンピック)

地域における地元学・聞き書きできっと確認

戦後日本の目標だったアメリカの産業構造の変化

THE CHANGING STRUCTURE OF EMPLOYMENT IN THE U.S.A.

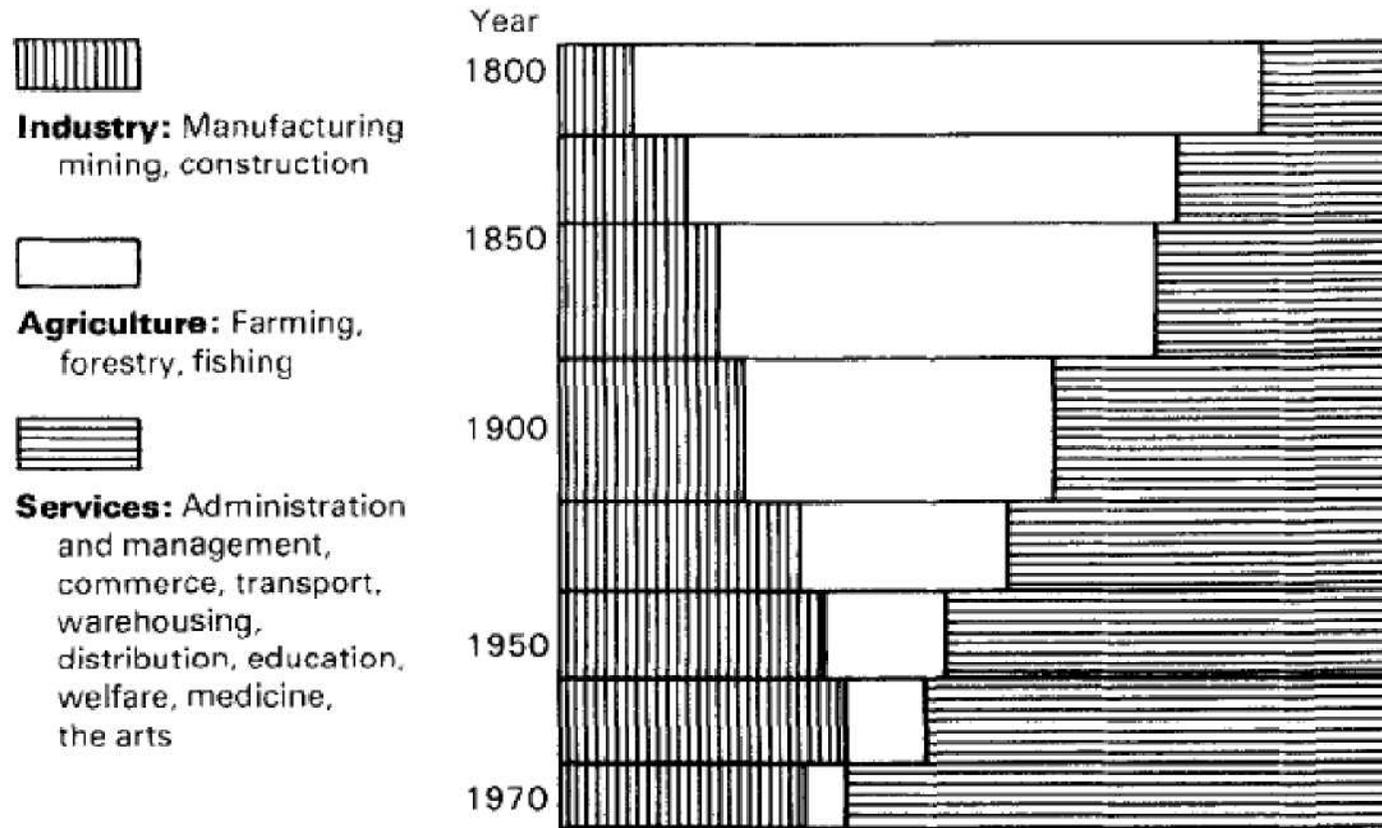
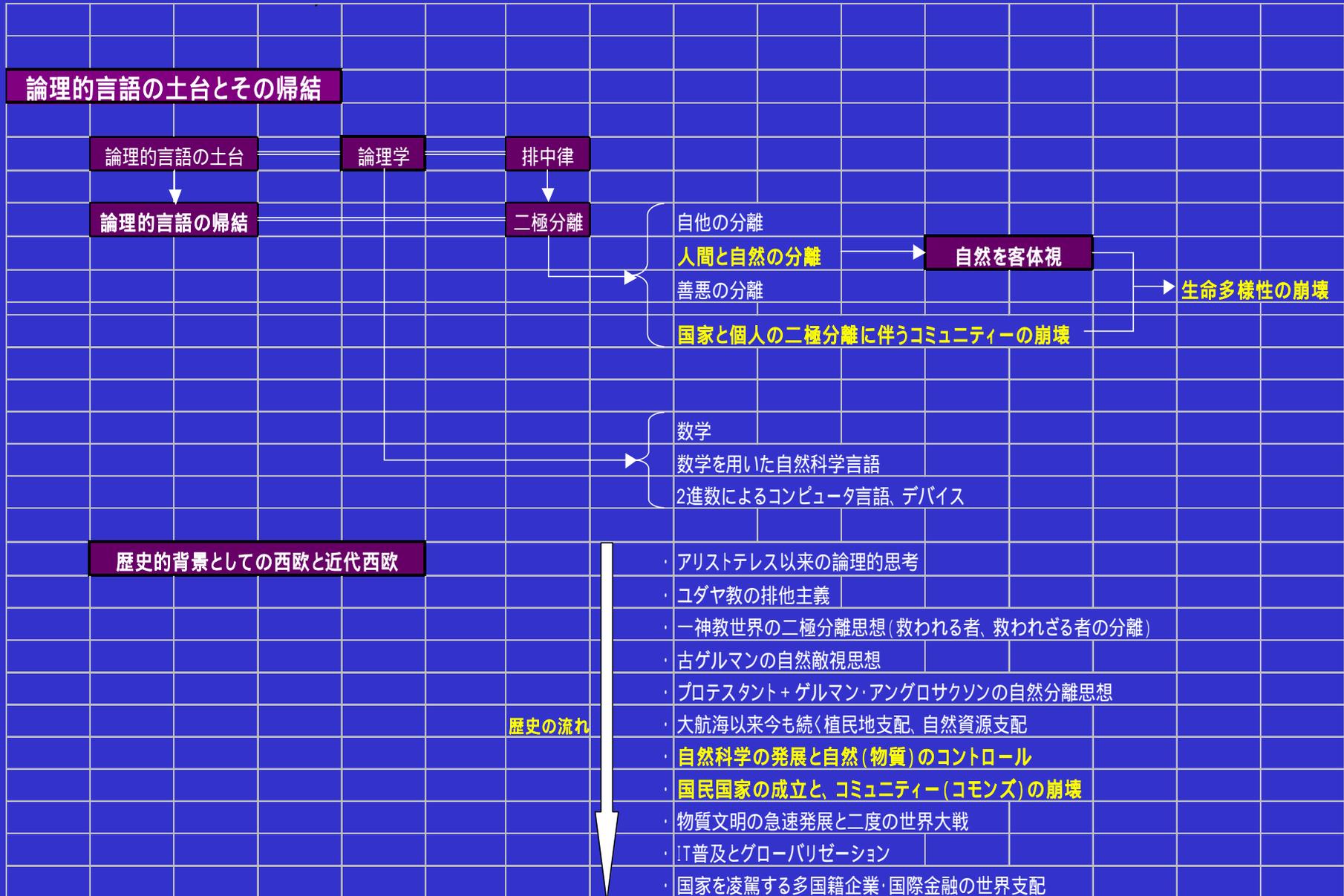


Figure 3.

“Socially Useful R & D” by Mike Cooley 1980

理屈っぽくいうと・・・(持続不能問題の根源を探る)



対極は、東洋の知 : 自然との融合、言語の否定

持続可能社会構築の原則

1. 自然資源無くして人間生活なし！ = 自然資本主義 (NATURAL CAPITALISM)
人間は所詮、食べて、出しているだけ
食べものを如何に作るかが最も大切、エネルギーは贅沢の指標
2. 地域の自然資源・人的資源 = 基本属性は「多様性」 (DIVERCITY)
BIO DIVERCITY (生命の多様性)とは、人間社会を含む多様性のこと
世界全体を欧米化するのではなく、多様性に満ちた地域資源を持続的に利用
3. 地域の多様性を確保する統治体制 = 補完性の原則 (SUBSIDIARITY)
地域の多様性を確保する為には、地域の人たちが決定権を持つ統治が必要
中央集権は、多様性でなく等質化した社会を作る(「金太郎飴社会」)
4. 闇雲な計画は止めよう！ = 手法としてのバックキャストिंग (BACK CASTING)
あわてて行動する必要なし！
しっかりとした目標を設定し、長期計画に基づいて行動



地域デザイン

持続可能な地域デザインとは (cf. "FEC自給圏" by 内橋克人)

- ・ものとエネルギーの地産地消
循環型社会の構築
- ・マンパワーの地産地消
持続可能な開発の基礎的条件
- ・税の地産地消
公共サービスの地産地消
基礎自治体に最大の徴税権を
地域自治の基礎的条件
- ・温故知新
山里の智恵(「暗黙知」)をどこまで取り戻せるか
(日本のは「生命多様性のふるさと」)

改革はどこから始まるか (人里離れた山奥でこっそりと！)

- ・遠いところから
 - ・弱いところから
 - ・小さいところから
- 究極の改革は、「海外自立支援」？
国内では、危機感を強く感じている郡部から
霞ヶ関、県等、上からの改革はもはや困難